TOPICS

カナダの航空宇宙産業 売上げ高世界第五位に

カナダの航空宇宙産業は、昨年二十三億ドルをこえる売上げを記録し、米国、フランス、英国、ソ連に次ぐ世界第五位の実績を示した。

航空宇宙関係企業百十社からなる航空業協会のジャック・デロッシュ会長によると、売上げは一九八五年には現在の二倍となり、八〇年代の終リにはさらに倍増する見込みだという。

六月に開かれたパリ航空ショーには、カナダからスター・エアロスペース、リットン・システムズ・カナダ、デハビランド・エアクラフト・オブ・カナダ、カナデアなど、およそ二十社が参加し、大きな成果をあげた。

カナダの航空機メーカーのうち、特に業績が目覚ましいのは全売上げの約一割を占めるデハビランド社。同社はこれまでに短距離離着陸機の五十人乗リダッシュ7を百機以上も売却または受注しているが、一九八三年の中頃に初飛行が予定されているダッシュ8についてもすでに多くの引き合いがあるという。

スター・エアロスペース社は、米国のスペース・シャトルの〝腕〟ともいうべき遠隔操作システムを製作したことで知られる。

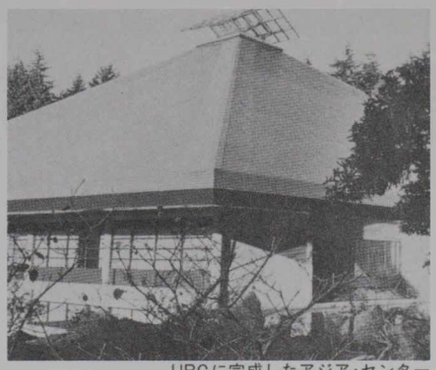
カナデア社のビジネス・ジェット機チャレンジャーも好評で、これまでに十四機が発注者に引き渡されている。

UBCにアジア・センター アジア学科、図書館などを収容

ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)に今年の夏、アジア・センターが開設された。

センターの建物（地上二階、地下二階）には、同大学のアジア学科、アジア研究所、アジア図書館（蔵書二十五万冊）、それに音楽学科、芸術学科、演劇学科のアジア部門が入るほか、講堂、音楽スタジオ、展示室なども完備している。このセンターは、一般の人にも開放されている。

アジア・センターは、当初、ブリティッシュ・コロンビア州の連邦加盟百周年（一九七一年）の記念に日本からBC州の州民への贈リ物として構想された。建物の枠組みは三洋電機が大阪万博のときのサンヨー館の枠組みを寄贈し、バンクーバーの日系建築家ドナルド・マツバ氏がこれを地下二階、地上二階、寄せ棟造リの建物に仕上げた。五百四十万ドルの建築費は、BC州政府、経団連、日本万国博覧会記念協会、カナダ連邦政府などが負担した。



UBCに完成したアジア・センター

連邦政府とアルバータ州 原油価格、収入配分で合意

カナダ連邦政府とアルバータ州政府は、九月一日、一九八六年末までの石油および天然ガスの基本価格を設定した協定覚え書に調印した。

およそ一年半にわたる交渉が決着したことにより、停滞していた石油・天然ガス開発プロジェクトが再開され、日量十八万バレルも削減されていた石油生産も元に戻ることになった。

合意の内容は、要旨次の通リ。

●アルバータ州における既開発通常原油（〝旧油〟）の井戸元価格を、現在（九月一日）のバレル当リ十八ドル七十五セントから十月一日に二ドル五十セント、来年一月一日と七月一日にそれぞれ二ドル二十五セント、その後は六か月ごとに四ドルづつ引き上げ、一九八六年七月一日には五十七ドル七十五セントとする。ただしこの時点の価格は、国際原油価格水準の七五パーセントを上回らないものとする。

●一九八〇年十二月三十一日以降に発見された通常原油、既存の油田からより高度の抽出技術を用いて得た追加生産分、オイルサンドおよびフロンティア油田から生産した原油――すなわち〝新油〟の価格は来年一月一日の予想価格バレル当リ四十五ドル九十二セントから、六か月ごとに引き上げられ、一九八六年七月一日には約七十九ドル四十八セントとなる。価格は国際原油価格に準拠するが、それを上回らないようにする。

●天然ガスの価格（現在アルバータ州界渡して千立方フィート当リ一ドル九十・五セント）は、来年二月一日に二十五セント、その後は半年ごとに二十五セントづつ引き上げられる。

●この協定による石油収入（見込み）二千百十二億八千万ドルは、アルバータ州三〇・二パーセント、連邦政府二五・五パーセント、生産者四四・三パーセントの割合で分配する。

カナダ学会、札幌で年次大会

日本カナダ学会（会長・平野敬一東大教授）の第六回年次研究大会が、九月五・六の両日、札幌の北方圏センターと北海学園大学で開かれた。

この研究大会には、地元の北海道大学、北海学園大学、北海道教育大学、北海道庁をはじめ、日本各地の大学、それに在日もしくは訪日中のカナダの学者数人をいれて百二十余人が参加、熱心な論議を展開した。

テリー・フォックス・マラソン 内外各地で百万人が参加

がんで右足を失ないながら、がん撲滅のための研究費を募金しようと五千キロも走り続けたテリー・フォックスの献身的行為を記念して、九月十三日、「第一回テリー・フォックス・マラソン大会」がカナダおよび世界各地で開かれた。

主催者によると、カナダ全国八百か所以上で十キロ・レースが展開され、およそ百万人がマラソン、徒歩、スキップで、あるいは自転車やスケートに乗って参加した。また西独、スペイン、日本、中国、英国など、カナダの外交官や軍隊が駐在する世界各地でも、十キロ・マラソンが行われ、在住カナダ人を中心に多数が参加した。各地の走者の中には、テリー・フォックスのような身体障害者も混じっていたという。

このマラソン大会は、がん研究募金のためのもので、およそ三百五十万人が参加ランナーの〝後援者〟となり、合計五百万ドル以上の寄付を約束した。カナダでは走